



10月1日発表のオーストラリアの政策金利据置きについて

金融政策について

オーストラリア準備銀行(RBA:中央銀行)は10月1日の金融政策決定会合において、政策金利であるオフィシャル・キャッシュレートを年率2.5%に据え置くことを決定しました。これは事前の市場予想通りでした。前々回(8月6日)の金融政策決定会合では、0.25%引き下げ、年率2.5%にしました。RBAは声明の中で、「現在の金融緩和政策は景気回復を促しつつ、インフレ目標を達成することができるものであり、当面適切である」との判断を示しました。次回の金融政策決定会合は11月5日の予定です。

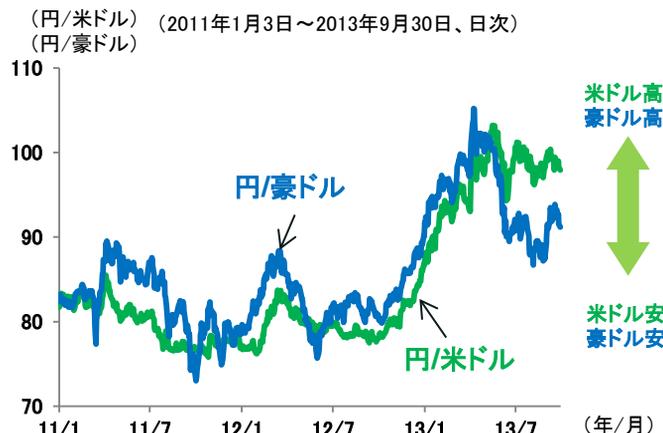
今後の見通し

オーストラリアでは、9月7日に総選挙が行われ、野党・保守連合(自由党と国民党)が下院の過半数を獲得し大勝しました。自由党のアボット党首が第28代首相に就任し、6年ぶりの政権交代が実現しました。市場では、アボット新首相への期待が大きく、これまでの労働党政権の経済対策からの転換に注目しています。労働党政権が導入した炭素税・資源税の撤廃や法人税の引き下げ、インフラ投資などの経済政策を実施しながら、非効率な財政支出の節減に努め、財政健全化路線は維持される見通しです。オーストラリア経済のファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)は引き続き安定しており、金利水準も相対的に高く資源国通貨でもある豪ドルは、長期的には堅調に推移するものと見ています。金利については、横ばいから低下、株式市場については、利下げの効果もあり、上昇してくるものと予想しています。

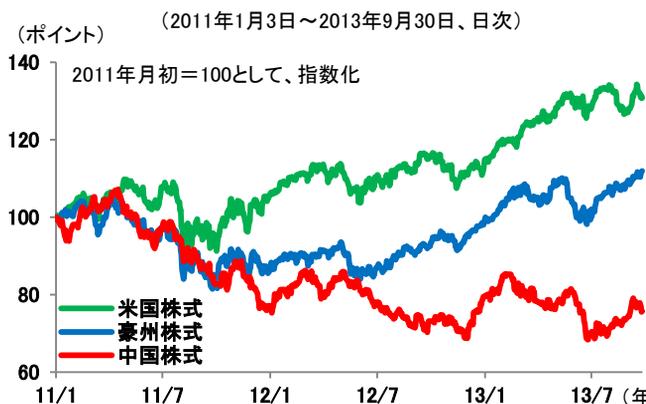
【図表1】 豪州政策金利と国債利回り(10年)の推移



【図表2】 円/米ドルと円/豪ドルの推移



【図表3】 豪州株式、中国株式、米国株式の推移



※豪州株式: S&P/ASX200指数、米国株式: NYダウ、中国株式: 上海 総合指数

【図表4】 豪州株式と金価格の推移



出所: 図表1～4は、ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成